

Funehiki High School News vol.90

◆ 福島大学に現役合格！

先日行われた福島大学推薦入試において、特別進学クラス 3 年生の佐藤美幸さん（移中出身）が、行政政策学類に見事合格を果たしました。佐藤さんに合格の喜びを聞きました。



▲佐藤美幸さん（移中出身）

私が福島大学への進学を決めたのは 3 年生に進級する直前の春休みでした。田村市の復興に自分も携わりたいという思い、さらに、3 年間陸上競技部で活動した経験を生かし、スポーツを通して地域に関わりたいという思い、この二つが理由となって行政政策学類を志望しました。入試を突破するだけでなく、入学後の勉強についていけるように、3 年生になってからは、それまで以上に気を引き締めて勉強に取り組むようになりました。

行政政策学類の推薦入試では小論文と面接が課されます。毎日のように、小論文と面接の練習に取り組みました。また、田村市役所を訪問し、田村市の現状等について、職員の方から貴重なお話を伺いました。初めて知ることも多く、震災後の田村市の課題についてしっかり考える機会になったとともに、より田村市の復興に貢献したいという思いを強くしました。毎日

の小論文の練習や面接練習が辛いと感じたり、周囲の友人が次々に合格していくことに焦りを感じたりした時期もありました。しかし、そんな時に支えとなったのは、共に大学進学を目指す友人の存在でした。さらに、面接や小論文、市役所訪問など、さまざまな場面でご指導をいただいた先生方にも本当に感謝しています。

今年、生徒会役員として田村市の CM 制作に携わりました。その際に、田村市の 5 つの地域の名所を訪れ、田村市の良さを改めて感じる事ができました。その一方で、震災以降の観光客の減少という現実も肌で感じる事ができました。

将来は地域の復興に関わる仕事に就きたいと考えています。

また、田村市の良さを外部に伝え、地域の方々と共に、震災以前よりも活気あふれる田村市にしていきたいです。そのために、福島大学で 4 年間学び、将来地元で貢献できる人材になりたいです。

◆ 就職内定率 100% 達成！

本年度の就職希望者 86 人全員の就職内定が決まりました。

県内外、そして多くの田村市内の企業に春からお世話になります。社会人としての心構えを固めるべく、残り数カ月の高校生活をしっかりと過ごします。

◆ デュアル実習成果発表会を行います

2 月 24 日（火）に今年度のデュアル実習成果発表会を行います。日頃の実習風景の紹介や生徒によるプレゼンテーション、発表などを行います。また、田村市立常葉幼稚園園長 武田幸子様のご講演会も予定しています。発表会には一般の方もご参加いただけますので、皆様ぜひご来場ください。

- と き：2 月 24 日（火）
13:30 ~ 15:30 (13:00 受付開始)
- ところ：田村市文化センター
※詳細については下記までご連絡いただくか、本校の HP をご覧ください。
- 問い合わせ：船引高校教務部 ☎0247-82-1511

▼実習先の服装で発表する実習生たち



▼あなたにとってデュアル実習とは



料理の冒険

Masako Kawate
マサコ・カワテさん
(アメリカ合衆国
ペンシルベニア州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	20

私の人生の中で、旅行はいつも重要な位置を占めています。私は行ったことがない場所を訪れたり、知らない人に出会ったり、その過程で人々の日常生活をじっくり見ることが大好きです。このような旅行への愛着は、祖父母や両親から私に受け継がれてきた伝統のようなもので、私の人生に大きく影響しています。この愛着のおかげで私は世界を横断し、田村市で英語を教えることを決めました。また、私の人生を積極的な方向に変えることになりました。

北アメリカやアジア、ヨーロッパ、アフリカへ旅行した経験から考えると、自分がどこにいるかによって旅という行為が大きく異なります。旅する移動時間や得ることのできる旅行の情報量、宿泊設備、公共交通機関の乗り継ぎの便利さなどは、ほんのわずかな要因にすぎません。私が旅して得る経験は場所によって大きく変わること、これからの日本での旅行でも私に教えてくれるでしょう。

日本は旅行するのがとても容易な国で、外国の旅行者にとって夢のような国です。他の国と比べて非常に安全で、とても清潔、時間を守り、最新の交通機関のおかげで便利な国と見なされています。加えて、私が日本で受けているもてなしや気配り（特に道に迷った時！）は、私の旅には不釣り合いなほどのメリットでした。

私はこれから日本にどのくらい住めるか分かりませんが、日本にいる間はできるだけ旅行を楽しむつもりです。旅行で私が一番好きな事の一つは、日本人たちにとっても、また私にとっても、とても大切だと感じている地方の特色ある食べ物を試してみることです。食文化は、独特の地域共同体の歴史を表し、私も参加することが楽しみな地方の伝統行事をお祝いするものです。地方の食べ物は生活に必要な要素であるだけでなく、おいしく、地域の農業と資源の恵みでもあります。私たちはたとえ同じ言葉を話さなくても、いろいろな方法でそれぞれの食べ物の際立った特色を人々と分かち合うことができます。食べ物という共通言語は、私たちそれぞれの背景や経験の違いにも関わらず、人々を一つに結び付けることができるものです。私たち人間はそれぞれに違いがあっても、皆おいしい料理を他の人たちと一緒に楽しんで食べることができるのです。私たちが共有している味と香りの感覚は、今や本当に単一化されています。

東北での私の旅行について考えると、「味の日記」とも言える食べ物にまつわる素晴らしい思い出があります。その思い出のどれもが、新旧の友人たちや母国へ帰った人たち、日本人たちと共にした食事風景を私に回想させてくれます。

秋田のきりたんぼや松島湾の新鮮な牡蠣、青森の純粋なりんごジュース、岩手の冷麺、佐渡島の牡蠣ご飯、山形の米沢牛等々、思い出は尽きません。

これらのことが、日本での旅行を私の大好きな趣味の一つにしています。これからも私は日本の他の地域を見て回り、見聞を広げ続けていくことに気持ちをかき立てられます。もちろん、食べ物がその例外になることはありません。



▲新潟旅行で撮影した写真